

## 18 「出雲」の神楽と神楽の中の「出雲」

【全2回】／開催方法：ハイブリッド

なかのあいか  
**中野秋鹿**

中村元記念館東洋思想  
文化研究所研究員



受講料	一般料金：¥4,200	早割価格：¥3,200(納入期限：8月26日)
-----	-------------	-------------------------

【日程・時間】【全2回】

8月31日(日) 12:30~14:00/14:10~15:40

■受講に必要なもの

[テキスト] レジユメ配布

現在、出雲地方では約70の保存団体や地区によって神楽が継承されています。同じ出雲の神楽といっても地域や団体ごとにそれぞれ特色があり、それが大きな魅力となっています。

一方で、ほとんどの団体で共通する演目もあります。それはヤマタノオロチ退治や国譲りなど、『日本書紀』や『古事記』の神話に依拠した演目です。

ご存じのとおり出雲という地は、「神々の国」「古代出雲王朝」など、神話や古代史の文脈の中で語られることが圧倒的に多いです。そのため、神代の物語を舞う出雲の神楽は、まるで古代からそのまま伝わっているかのような印象を持たれがちです。時には、神楽の源流とまで言われることもあります。

しかしそのイメージは実態と乖離したものであり、かつての出雲の神楽では、『日本書紀』や『古事記』の神話とは異質の、神と仏と鬼の世界が展開していたのです。

本講座では、出雲地方で舞われている神楽の歴史、地域・団体ごとの特色や魅力、石見・備後など近隣の神楽と比較した特徴などについて詳しく解説します。

また、全国の神楽に目を向けると、出雲が舞台の演目があったり、神楽に使用する道具の謂れに出雲の地名が登場したりと、神楽と出雲との深い関りが見てとれます。ヤマタノオロチ退治を描く演目はその代表例で、なんと遠く離れた岩手県の神楽でも舞われているのです。

全国各地の神楽の中に、「出雲」的なものがどのように存在しているのか、外から見た「出雲」について考察します。

今年の神楽の奉納に関する情報もご案内しますので、講座を受けられたあとは、ぜひ実際に足を運んでみてください。